

# 東寺

京都



## 真言宗總本山東寺について

このお寺は平安京造営の時東寺として創建されました。

皇居から南へ延びる朱雀大路の南端に、都への入口として羅城門が

あり、その東側に東寺、西側に西寺の官立寺院が建立されました。

そして東寺を弘法大師に賜つたのです。

東寺は左京と東日本の守り寺として一千二百年になります。  
(西寺は現在存在しません)

弘法大師はその教えを真言宗と名付けられ、東寺は教王護国寺と名乗りました。

人間も自然もそのまま仏様と同じであると教えられ、誰でもやれば出来る事を示されました。

今日はわざく  
ご参詣下さいまして

大変有難うございました。

合掌

真言宗總本山 教王護国寺  
(東寺)

国宝「大師堂」へご参拝ください  
「世界遺産条約」登録

# 国宝・五重塔

## 一初層内部

高さ五五メートル

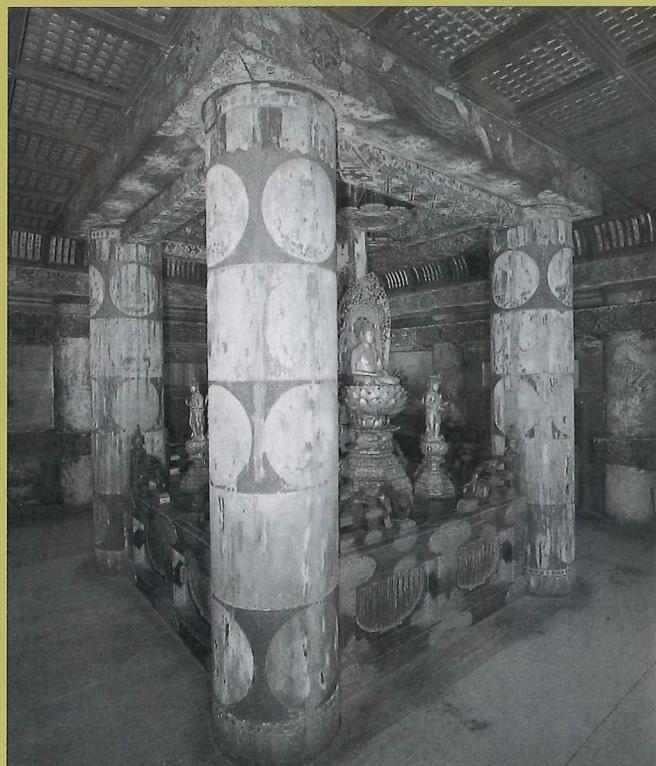
本瓦葺

江戸時代(寛永二年 一六四四)

空海が嵯峨天皇から東寺を勅賜されたとき、塔はまだ建つていなかつた。空海は、天長三年(八二六)東山の材木を造営に充てることを願つたが、稻荷山の神木事件などがあり、容易に拂らなかつた。ようやく元慶七年(八八三)に竣工したが、その後、天喜三年(一〇五五)焼亡、応徳三年(一〇八六)再建、文永七年(一二七〇)焼亡、永仁元年(一二九三)再建、永禄六年(一五六三)焼亡、文禄三年(一五九四)再建、寛永十二年(一六三五)焼亡、寛永

二一年(一六四四)再建と四度の焼亡をして、その都度再建され、現在は五代目の塔に当たる。日本では唯一の高さでもある、雷がおちやすかつたことも考えられる。

内部は心柱を大日如来に見立て、その周囲の須弥壇上に阿闍梨如来、宝生如来、阿弥陀如来、不空成就如来の金剛界四仏と八大菩薩を安置している。現在は剥落しているが、四天柱には金剛界曼荼羅諸尊が描かれている。外陣周りは、四方の扉の内面に護法八方天が、扉の左右の柱には八大龍王が描かれ、そして周囲の壁の上段に真言八祖像、下段には蓮池が描かれている。さらに、天井は折上小組格天井とされ、長押等にも全面にわたつて極彩色の文様が装飾されている。



初層内部 北西より

真言宗総本山東寺 公式ホームページ <http://www.toji.or.jp>

## 耐震構造

東寺の塔は創建以来、四度の焼失を経て いるが、地震で倒壊したという記録は見当たらない。これは五重塔の塔身が各層ごとに、軸部・組み物・軒を組み上げ、これを最上層まで繰り返す積み上げ構造になつていて、木材同士も切り組や単純な釘打ち程度で、緊結されていない柔構造だからである。したがつて、地震のエネルギーは接合部で吸収され、上層へ伝わるにつれ

て弱くなるとともに、下と上の層が互いに振動することになる。柱も各層では短いため、倒れようとする力よりは元に戻るうとする復元力の方が大きいので、地震に強いと考えられる。

## 心柱

多くの部材で積み上げられた塔身は乾燥で収縮するが、独立した心柱はあまり収縮しない。そのためズレが生じ、そのズレを直すために、元禄五年（一六九二）一尺五寸（約五十七センチメートル）ほど心柱を切り下げたため、須弥壇下の心柱の彩色が少しづれている。

